

## 旅行取扱状況の概観（平成27年12月分）

下記、月次取扱額は、近畿日本ツーリスト(KNT)とKNT個人旅行、クラブツーリズム、KNT北海道、KNT東北、KNT中国四国、KNT九州、ユナイテッドツアーズ、KNT商事の合算額となります。

## 記

海外旅行の取り扱い、一般団体は前年比83.3%、学生団体は同84.3%、団体旅行合計で同83.9%と前年を下回った。企画旅行については同99.7%とほぼ前年並みであったが、個人旅行については前年比77.8%と前年を下回った。この結果、海外旅行総取扱額としては、前年比88.4%と前年を下回った。

国内旅行の取り扱い、一般団体は前年比138.8%、学生団体は同110.7%、団体旅行合計で同121.1%と前年を大きく上回った。企画旅行については同98.0%と前年をやや下回り、個人旅行についても同95.7%と前年を下回った。この結果、国内旅行総取扱額としては、104.2%と前年を上回った。

外国人旅行は、前年比130.7%と前年を大きく上回った。

以上の結果、ホールディングス主要会社の12月の総取扱額は前年比100.7%となり、前年を上回った。

## 【主要会社の状況】

## 1. 近畿日本ツーリスト株式会社

海外団体については、一般団体は大型のSIT旅行等の取り扱いをしたものの、テロ等の外的要因で取り扱い団体数が減少したことにより、前年比86.8%と前年を下回った。学生団体も同様にテロ等の外的要因による旅行中止や延期等の影響があり同84.3%と前年を下回った。その結果、海外団体旅行合計で同85.3%と前年を下回った。

国内団体については、一般団体は複数の自治体より地域誘客交流事業を受託、運営したことや、大型の文化イベントの取り扱いにより、前年比138.5%と大きく上回った。学生団体は修学旅行の取り扱い団体数の増加や大型の各種大会および研修の取り扱いにより前年比110.7%と大きく上回り、国内団体旅行合計で前年比121.0%と大きく上回った。

## 2. 近畿日本ツーリスト個人旅行株式会社

メイトは、取扱額で前年比93.6%と前年を下回った。方面別取扱人数の状況では、北陸、南紀、中国四国は好調を維持しており、東北、九州も前年並みであったが全般的に伸び悩んだ。

ホリデイは、様々な外的要因はあったものの、取扱額で前年比94.5%と前年を下回った。方面別取扱人数の状況では、アメリカ・台湾が好調であったが他方面は全般的に不調であり、全方面合計で前年比83.7%と下回った。

## 3. クラブツーリズム株式会社

海外旅行部門は、パリで発生したテロの影響により、西欧方面のクリスマス商品の取消等相次いだが、取扱額で前年比104.7%と前年を上回った。

バス旅行を除く国内旅行部門は、廉価型商品が全般的に不振であり、前年比97.9%と前年を下回った。

バス旅行部門は、地方創生のふるさと割ツアーの追い風を受けたことや、列車利用商品が好調に推移し、取扱額で前年比104.0%と前年を上回った。

テーマ旅行部門は、雪不足でスキー商品は不調であったが、テロの影響を受けにくい地域での海外ハイキングやホノルルマラソンなど好調に推移し、前年比106.4%と前年を大きく上回った。

以上